

株式会社菅製作所

ホームページ



放電プラズマ焼結装置と薄膜用研究開発支援装置をコラボ、驚異の材料研究を世界へ

会社概要

所在地 / 〒049-0101 北斗市追分3丁目2番2号
 代表者 / 代表取締役社長 菅 育正
 設立年 / 1968年12月
 資本金 / 34百万円
 売上高 / 4.5億円 (2019年12月期)
 従業員数 / 39名 (うち正社員 37名)
 URL / <https://agus.co.jp>

連絡先

担当者 / 営業部 部長 渡邊 正明
 E-mail / sales_ml@suga.ne.jp
 TEL / 050-3734-0730
 FAX / 0138-49-8661

関連企業等

主要取引先 (納品先・販売先)

ヤンマー、太平洋セメント、北海道大学、東北大学、京都大学、大阪府立大学等。

認証・受賞・資格等

第6回ものづくり日本大賞優秀賞受賞、旋盤1級技能士2名、旋盤2級技能士1名、フライス1級技能士1名、フライス2級技能士1名、機械組み立て仕上げ2級技能士2名

事業概要

菅製作所は1946年の創業以来、船舶用機器の製造技術を核とし、真空技術・高温技術・ROM書込みの導入により発展しています。総合力を特徴として、お客様と協働で価値を創造します。

ALD装置・スパッタ装置・蒸着装置・光放出電子顕微鏡・SPSプラズマ焼結装置等の研究開発支援機器やクレーン・揚網機等の船舶用機器を、開発から設計、製造まで一貫した品質体制で、ワールドワイドに販売しています。

また、SUS304、SUS316、インコネル、アルミニウム等や鋳物の機械加工も承ります。

主要製品・技術の紹介

- 機械部品受託生産：長年にわたり培った機械加工技術と生産ノウハウをベースに、真空部品をはじめ、各種機械部品の製造を受託します。
- 研究支援機器：真空技術、高温技術をコアテクノロジーとして、薄膜形成、分子物質合成、微細加工、微細構造解析の領域で研究開発支援機器を提供します。
- 船用機器：動力伝達のエキスパートとして、船舶用クラッチ・ブレーキ等の主機前駆動装置や油圧漁労機等の船舶機器を総合的に提供します。
- ROM書込みサービス：汎用マイコン、汎用メモリへの書込みサービスを提供します。試作から量産まで、お客様の多様化するニーズを高い技術力でサポートします。

◆SAL1000 デスクトップ型 ALD 装置



・1 原子層毎の精密な堆積制御を実現し、均一で段差被覆性に優れた研究開発用の卓上小型原子層堆積装置です。

◆SSP1000 キュービックスパッタ装置



・高性能、高品質と低価格を実現した卓上小型スパッタ装置です。【UP, SIDE, DOWN】を自由に変更できる構造で、3方向の成膜膜験が可能です。

◆SPS2000 放電焼結装置



・従来の一般的な放電プラズマ焼結機の改良に加え、操作性と安全性を向上したコンパクトな小型軽量焼結装置です。

	設備機器名	台数	メーカー・型式・ワークサイズ等
主要設備	テーブル形横中ぐりフライス盤	1	東芝機械 BTD-200QH x1500 Y1200 Z700
	立型マシニングセンタ	1	大阪機工 MCV520 x1020 Y520 Z560
	NC旋盤	1	日立精機 NR23 振り380/芯間600
	超音波洗浄機	2	SHARP UC-6200
	ヘリウムリークディテクタ	2	アネルバ 定量測定範囲 10-12~10-2 Pa・m ³ /s 台



会社概要

所在地 / 〒050-0087 室蘭市仲町 15 日本製鉄(株)室蘭製鐵所構内

代表者 / 取締役社長 赤松 将雄

設立年 / 1947年 ※1985年室蘭工場

資本金 / 473百万円 ※全社

売上高 / 262億円 (2019年3月期) ※全社

従業員数 / 18名 (うち正社員 17名)

URL / <http://www.matsubishi-kinzoku.co.jp/>

連絡先

担当者 / 本社企画管理部次長 武田

E-mail / t-takeda@matsubishi-kinzoku.co.jp

TEL / 042-554-4811

FAX / 042-554-9311

関連企業等

親会社 : 日本製鉄(株) 100%子会社 : 松菱エンジニアリング(株)

※2020年度中に埼玉県飯能市に移転予定

主要取引先 (納品先・販売先)

本田技研工業、三菱自動車、富士重工業、いすゞ自動車、日野自動車、日産自動車、トヨタ自動車、三菱製鋼、浅川製作所
ショーワ、トープラ、曙ブレーキ、ミツバ、サンデン、他

認証・受賞・資格等

ISO9001 (平成 11 年 1 月)

ISO14001 (平成 15 年 6 月)

事業概要

創業以来、鉄鋼二次製品であります磨棒鋼をベースに冷間圧造用鋼線から冷間鍛造品を主とした素形製品へと製造・営業品目の拡大を図ってまいりました。主要需要分野であります自動車産業をはじめ各種機械・機器メーカーの厳しいニーズに応えるため、日夜研鑽に努めております。

- ・日本製鉄(株)の特殊鋼棒線加工拠点として、「改善から開発へ」をキーワードに、鉄鋼メーカーと連携して技術開発・革新を進めております。
- ・日本の産業界の国際的な展開が急速に進むなか、特殊鋼棒線加工のエキスパートとして、「品質・コスト・納期」のさらなる追求を進め、鉄鋼加工事業を通じて豊かな価値の創造・提供を行い、産業界の発展と人々の暮らしに貢献して参ります。
- ・室蘭工場は主力の磨棒鋼に加え、近年は鋸切断品 <自動車用デフギア (駆動系 差動装置部品) > の取扱いを拡大しております。

主要製品・技術の紹介

- ・バー製品、コイル製品、素形製品は、自動車産業をはじめ電機、建設機械、OA 機器、住宅機器など様々な分野の部品として使用されています。特に素形製品は、より複雑で高精度を要求される重要部品として使用されています。自動車産業では、当社の製品が様々な部品として使用されています。
- ・バー製品は懸架バネ・シャフト類として、コイル製品はボルト・ナット類に用いられます。
- ・当社製品は、「エンジン・ミッション・足回り関係」、「ブレーキ・ステアリングなどのパワートレイン関係」、「スターター・ワイパー・エアコンのコンプレッサー等の電装関係」などの重要保安部品に多く使用されています。

◆磨棒鋼 (引抜加工)



・製鋼メーカーから仕入れた線材を超硬ダイスを用いて冷間 (常温) で棒状に引抜加工します。主に自動車用ばね鋼を高い品質が要求されるサスペンション素材へ加工しています。

◆磨棒鋼 (ピーリング加工)



・製鋼メーカーから仕入れた棒鋼をピーリング (研削) 加工します。主に建設機械用のシャフト部品に適用されています。鋼材の表面キズおよび脱炭層を除去できるため、近年ニーズが高まりつつあります。

◆鋸切断品



・丸鋸で鋼材を精密切断します。自動車用デフギア (駆動系差動装置部品) 向けとして、ピーリングと焼鈍を加えることで顧客の高いニーズに応えています。

主要設備	設備機器名	台数	メーカー・型式・ワークサイズ等
	連続抽伸機	3	宮崎機械システム
	ピーリングマシン	2	コマツ工機・大昌精機
	丸鋸切断ライン	3	津根精機
	ローラーハウス式連続焼鈍炉	2	光洋サーモシステム・大同特殊鋼

<巻末資料> 掲載企業 五十音順インデックス

◎：特に中心となる技術分野 ○：対応可能な技術分野

	企業名	電子・電気部品	組込ソフトウェア	A・I・I・O・T	生産設備・自動機	樹脂成型	金型・治工具	機械加工	鍛造・プレス・板金	表面処理	鑄造・ダイカスト	その他	掲載頁
1	アーキ・システム・ソリューションズ(株)		○	◎									15
2	アイクス(株)					○	◎	○					40
3	(株)ASCe (アスク)				◎							○	28
4	(株)アットマークテクノ			◎									16
5	(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン函館工場	◎											1
6	(株)池田熱処理工業							○		◎		○	69
7	上原ネームプレート工業(株)旭川事業所					○				◎			70
8	ウメトク(株)北海道営業所									◎			71
9	(株)AI ハヤブサ		○	◎	○								17
10	(株)エクスプローラ		◎	○									11
11	エコモット(株)			◎								○	18
12	(株)エスイーシー		○	◎								○	19
13	(株)FJ コンボジット	◎				○						○	2
14	オーエスマシナリー(株)小樽工場				○		◎	○					41
15	大岡技研(株)室蘭工場								◎				64
16	(株)太田精器						○	◎					49
17	岡谷岩井北海道(株)				◎		○	○				○	29
18	(株)荻窪金型製作所						◎	○					42
19	帯広電子(株)	◎			○	○							3
20	(株)キメラ					○	○	◎					50
21	(株)京進機工							◎					51
22	(株)倉本鉄工所				○			○	○	◎			72
23	(株)グローバル・コミュニケーションズ		○	◎								○	20
24	京浜精密工業(株)北海道工場							○			◎		76
25	光生アルミ北海道(株)						○	○		○	◎		77
26	(株)コスモ設計				○	◎		○				○	35
27	(株)サカイ技研						◎						43
28	札幌エレクトロプレイティング工業(株)							○		◎			73
29	佐藤鑄工(株)							○			◎		78
30	(株)三五北海道							○	◎				65
31	JPMOLD(株)						◎	○					45
32	シンセメック(株)				◎		○	○					30
33	新明工業(株)北海道工場				◎			○					31
34	伸和機型(株)						◎						44
35	(株)菅製作所							○		○		◎	81
36	(株)セコニック電子函館事業所	◎											4
37	第一金属(株)						○		◎				66
38	中央精工(株)	○	○		○	○	○	◎	○				52
39	(株)調和技研			◎									21
40	(株)土谷製作所						○		◎				67
41	(株)ディーディーエル		○	◎									22

◎：特に中心となる技術分野 ○：対応可能な技術分野

	企業名	電子・電気部品	組込ソフトウェア	A・I・I・O・T	生産設備・自動機	樹脂成型	金型・治工具	機械加工	鍛造・プレス・板金	表面処理	鋳造・ダイカスト	その他	掲載頁
42	(株)テクノフェイス		◎										12
43	(株)デジック		◎										13
44	(株)電制	○	○	◎									23
45	十勝葉山電器(株)	◎				○	○	○	○				5
46	(株)徳重石狩工場・札幌支店					◎	○					○	36
47	トルク精密工業(株)					◎	○		○				37
48	(株)永澤機械						○	◎			○		53
49	(株)ナップ				○		◎	○					46
50	(株)西野製作所						○	◎		○			54
51	ニックス(株)北海道工場					◎	○	○		○			38
52	日軽松尾(株)苫小牧工場							○	○		◎		79
53	(株)バーナードソフト		○	◎									24
54	(株)ハイテックシステム		○	◎	○								25
55	函館電子(株)	◎											6
56	(有)馬場機械製作所							◎					55
57	(株)パブリックリレーションズ			◎									26
58	(株)ビックボイス		○	◎									27
59	ファクター(株)室蘭工場	◎											7
60	不二電子工業(株)千歳工場	○			○	◎	○		○				39
61	北新金属工業(株)							◎					56
62	ホクダイ(株)							○			◎		80
63	北海道イーグル(株)							◎					57
64	北海道電子機器(株)		◎	○	○								14
65	北海道日興電気通信(株)	◎											8
66	北海道パーカライジング(株)									◎			74
67	北海道古川電気工業(株)	◎											9
68	北海パネ(株)	○					○	○	◎	○		○	68
69	北興化工機(株)				○			◎				○	58
70	(株)ホリモト・モールド					○	◎	○	○				47
71	松江エンジニアリング(株)						○	◎					59
72	松菱金属工業(株)室蘭工場							○	○	○		◎	82
73	(株)松本鐵工所				◎			○					32
74	(株)ミクロ札幌							◎		○			60
75	(株)むろらん東郷							◎					61
76	室蘭ヒート(株)									◎			75
77	メイトク北海道(株)						◎	○		○			48
78	明和機械(株)				○	○		◎	○				62
79	明和工業(株)苫小牧工場				◎			○					33
80	(株)メデック			○	◎			○					34
81	(有)山本エンジニアリング				○		○	◎	○	○			63
82	ユニマイクロンジャパン(株)	◎											10

北海道経済部産業振興局産業振興課

住 所	<u>〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目</u>
TEL	<u>011-204-5323</u>
FAX	<u>011-232-2139</u>
E-mail	<u>keizai.sangyousinkou1@pref.hokkaido.lg.jp</u>
URL	<u>http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/ssg/sgs/index.htm</u>
発 行	<u>2020年3月</u>